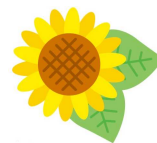


ひまわり



令和5年3月6日(月)

足るを知る



北田辺でたばこ屋を営んでいた祖父母の口癖は、「足るを知る」でした。「何でも欲しい欲しい言うな。欲にはきりが無い」とも言っていました。ですから祖父母に北田辺商店街のおもちゃ屋さん(つたや玩具)に連れていってもらっても、これが欲しいとはなかなか言えなかった思い出があります。

「知足(ちそく)」という言葉があります。「足るを知る者は富む」という、中国の老子(ろうし・春秋時代の哲学者)の言葉が語源です。自分の持っている物に満足し、それ以上の物をことさらに欲しがらない。そのような心を持っている人こそが、豊かな人生を送れると老子は教えました。

こんなたとえ話があります。ある村に二人の牛飼いAとBがいました。Aは99頭の牛を飼い、裕福な暮らしをしていました。しかし、その生活には満足していませんでした。彼の目標は100頭の牛を飼うこと。Bには3頭の牛しかいませんでしたので、決して裕福な暮らしではありませんでした。しかし、彼はその生活に満足していました。

ある日、AがBのところにやってきて、「生活に困っているので牛を1頭分けてほしい」と頼みました。Bは「そんなに困っているのなら」と、Aに牛を分けてあげました。Bは困っている人を助けることができよかったと心から思い、とても満足しました。牛を分けてもらったAは、牛は100頭になりましたが、次は101頭にしたいと考えていました。きっと101頭になれば、さらに欲しくなるでしょう。こんなことを続けていたら、欲に振り回されて、いつまで経っても心の平穏はやってきません。ましてや牛が減ろうものなら、不安は強くなるばかりです。。

物欲を持つことは、決して悪いことではありません。しかし、「物欲」に振り回されてしまうと、人は豊かな心を失います。牛飼いAとB、皆さんはどちらが幸せだと思いますか。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

